津山藩医・箕作阮甫（みつくりげんぽ）の末裔が指揮する
マーラー交響曲 第6番演奏会

とき 9月23日㈷開場13:30、開演14:00
ところ 津山文化センター（山下）

指揮 藤岡幸夫
（関西フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者）
管弦楽 関西フィルハーモニー管弦楽団

関西フィルハーモニー管弦楽団

藤岡幸夫 (c)SHIN YAMAGISHI

インタビュー

津山でタクトを振る歓び

藤岡幸夫

わたしは、阮甫から数えて6代目の末裔にあたります。

箕作家は、よく学者の家系と言われますが、阮甫の曾孫にあたる箕作秋吉は、クラシックの作曲家でした。そういった血を、わたしも引き継いでいるのかもしれませんね。

また、わたしの音楽の師である故・渡邉曉雄先生がこの音楽祭を立ち上げた1人であることにも、運命的なものを感じています。先生はよく「津山は、日本のザルツブルグだ。地方都市の音楽を振興することは、日本の音楽の発展に不可欠だ。」とおっしゃられていて、わたしも津山には憧れを持っていました。

1987年、第1回津山国際総合音楽祭が開催された際、わたしは先生の付き人として、初めて津山を訪れました。その時「いずれ、津山でタクトを振りたい」と思ったことを思い出します。ですから、今回、津山国際総合音楽祭で、祖先のふるさと・津山でタクトを振る機会をいただいたことを、本当にうれしく思っています。

音楽祭で指揮するマーラーの交響曲第6番は、緻密な構成の中に劇的な性格を持つ楽曲として有名で、マーラーの充実した創作期を代表する楽曲の1つともされています。

その見せ場の一つとして、第4楽章では、ハンマー（木槌）を打楽器として使用します。どのような演奏になり、皆さんにどう感じていただけるか、とても楽しみです。

関西フィルハーモニー管弦楽団とわたしは、15年間、共演してきました。一体感あふれる演奏で、マーラーの壮大な交響曲の世界を、皆さんにお届けしようを思っています。ぜひ、ご期待ください。

未来に架ける人の輪・音の輪

第９回 津山国際総合音楽祭

テーマ作曲家：グスタフ・マーラー

今年は、第９回津山国際総合音楽祭が開催されます。
この音楽祭では、津山にゆかりのある人や市民などが、コンサートやリサイタル、ミュージカルなど、多彩な催しで音楽を奏でます。
皆さんも、家族や友人を誘って、〝芸術の秋〟を楽しみにまちに繰り出しませんか。

前期 2014. 9/13［土］▶9/28［日］
後期 2014. 10/4［土］▶10/19［日］

津山国際総合音楽祭前夜祭アコースティックナイト
みんなで歌おう「僕らの街の音楽を」
とき 9月13日㈯午後6時開場　6時30分開演
ところ ベルフォーレ津山（アルネ・津山7階）
出演 僕らの街の合唱団、河島将彦、だいふく、泉沙世子（スペシャルゲスト）